

みずほ検定
クイズDEみずほ～歴史・史跡編～
公式テキスト



みずほ検定について

瑞穂区の魅力をみなさんに知っていただき、わがまち“みずほ”への愛着やまちづくりへの関心を高めていただくために、“みずほ検定”を実施します。

この検定は、幅広くみなさんに瑞穂区の歴史や史跡に親しんでいただくために、試験問題を初心者向けの内容としますので、どなたでもお気軽に受験していただけます。

瑞穂区役所

史跡めぐりをされる方へのお願い。

史跡は、自然や先人が遺してくれた貴重な文化財産です。

大切な財産を受け継いでゆかれるよう、マナーを守って行動しましょう。

- ・ 史跡をよごしたり、傷つけたりしないように注意しましょう。
- ・ 寺社などの史跡には、一般に立ち入ってはいけない場所もあります。許可なく入ることのないようにしましょう。
- ・ ごみは各自で持ち帰りましょう。
- ・ 自転車や車などを駐車する場合は、交通ルールを守りましょう。

史跡によっては、人が住んでいる所や公共で利用している所もあります。住んでいる人や周りの人へ迷惑行為を起こさないよう心がけましょう。

目次

瑞穂区の生い立ち…………… 1

○瑞穂区の地形…………… 1

○瑞穂区の最初の住人？…………… 2

○祖先が繁栄した跡？「古墳」…………… 3

○古い時代の瑞穂…………… 4

○江戸時代から明治時代の瑞穂…………… 5

○瑞穂区の誕生…………… 6

○瑞穂区に整備された古い道…………… 7・8

瑞穂区の史跡（地図）……………9・10

瑞穂区の史跡……………11

1 中山神明社……………11

2 信正寺……………11

3 八高古墳……………12

4 八劔社……………12

5 高田城跡……………12

6 盛屋寺……………13

7 金龍寺……………13

8 富士八幡社……………14

9 神之内八幡社……………14

10 一之御前社……………14

11 蛇塚遺跡……………15

12 直来神社（直會社）……………15

13 海上寺……………16

14 八幡社・白山社……………16

15 瑞穂遺跡……………17

16 秋月院……………17

17 大喜遺跡……………18

18 田光八幡社……………18

19 大喜寺……………19

20 田光遺跡……………19

21 白龍社……………20

22 津賀田神社……………20

23 天聖寺……………21

24 おつくり山古墳……………21

25 為麿塚……………21

26 龍泉寺……………22

27 長福寺……………23

28 浜神明社……………23

29 八丁畷址……………24

30 東ノ宮神社……………24

31 藤原師長謫居地……………25

32 名古屋市博物館……………25

33 東栄八幡社……………25

34 村上神社・おどり山古墳……………26

35 東山荘……………26

36 正及神社……………27

37 暮雨巷……………27

38 善進寺……………28

39 真好天神社……………28

40 瑞穂古墳群……………29

41 下内田貝塚……………29

42 大曲輪遺跡……………30

43 あゆちの水……………30

44 中根銅鐸発見地……………31

45 西八幡社……………32

46 宝蔵寺……………32

47 中根中ノ城跡……………33

48 東八幡社……………33

49 観音寺……………34

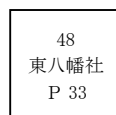
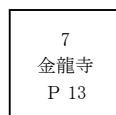
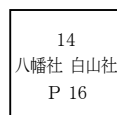
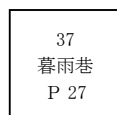
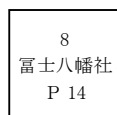
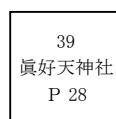
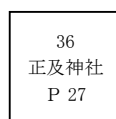
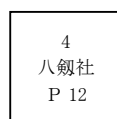
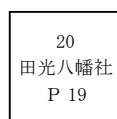
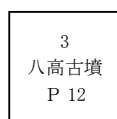
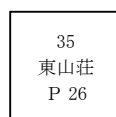
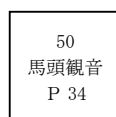
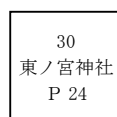
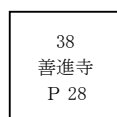
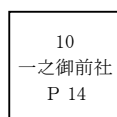
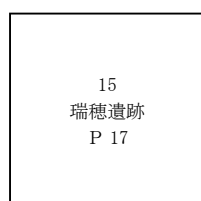
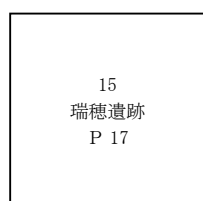
50 馬頭観音……………34

参考文献・資料……………35

表紙の写真について

下の 15 枚→

上の段 2 枚↓



瑞穂区の生い立ち

瑞穂区の地形

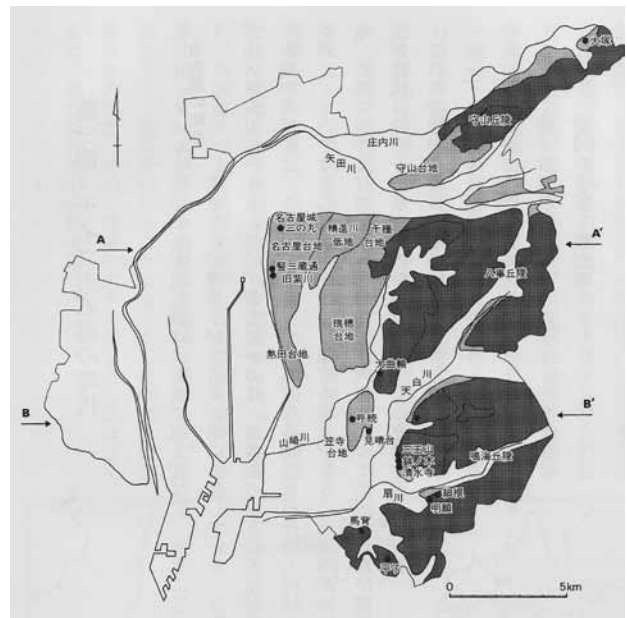
名古屋市の地形は、東の丘陵から順に、台地、低地、と西に向かって低くなっており、瑞穂区のほとんどは、丘陵（八事丘陵）と台地（瑞穂台地）の上にある。

区の西部や南部の天白川沿いは平坦で、東部に行くにしたがい丘陵地帯が多くなっている。

区境や区内を新堀川・山崎川・天白川の三川が流れている。

区 分	構 造	標 高	地 質
弥富丘陵 山崎川の東側 天白川の北側	八事層 約 80 ～ 100 万年前 の堆積 南西に傾斜	弥富円山 47.1 m 萩山 20 m	砂、礫（＝小石）、シルト（＝砂と泥の中間）の層 水平に並んだチャート石（白色か赤褐色）を多量に含んでいる
瑞穂台地 山崎川の西側 精進川の東側 （新堀川）	熱田層 八事層の上に、 約 4 ～ 15 万年前の堆積 南西に傾斜	桜山 17.5 m 瑞穂小 15 m 井戸田 10 m	砂・シルト・粘土・礫の層 黄褐色 表土（砂・礫）の下に粘土層、地下水を多く含んだ層

名古屋の丘陵と台地 「名古屋市史」



瑞穂区の最初の住人？

～縄文時代の人々が住んでいた跡

瑞穂区のあたりでいつごろから人が住み始めたのかは、はっきりしていないが、瑞穂区内で発見された遺跡（^{かけがみ}欠上貝塚・^{おおぐるわ}大曲輪貝塚・^{しもうちだ}下内田貝塚）では、人が生活をした跡が見つっている。これらの遺跡から、今から約4～6千年くらい前（縄文時代の一時期）には、瑞穂区内で人が暮らしをしていたと思われる。ただし、このころに人が瑞穂区に定住して生活していたかどうかは、その後、弥生時代に農耕生活を始めるまでは、食料を求めて移住する不安定な生活をしていたのではないか、と考えられている。



大曲輪遺跡から出土した人骨

「瑞穂区役所発行 “みずほ”」



貝塚の分布

「名古屋市史」

～大昔の人々の暮らしと文化

縄文時代のころは、樹の実を採集したり、狩猟していた山間などの暮らしから、海岸へ進出し漁を行う暮らしをしている人々があらわれるが、瑞穂台地のふちのあたりの欠上貝塚・大曲輪遺跡（貝塚）・下内田貝塚・瑞穂遺跡・田光遺跡^{たこう}などからその遺物が発見されている。

多くは、土器（食料を貯蔵、調理）が見つかり、その他に石の矢じり（狩猟の道具）犬・猪・鹿の動物の骨・貝殻（食料）が出土している。また、珍しいものとしては、縄文人とされる人骨とイヌの骨が共に発見されたもの（一緒に埋葬された？）や土偶^{どぐう}が大曲輪遺跡で発見されている。

弥生時代は、米を作る生活にかかわっており、ある程度定住し、人々もまとまって生活していたものとされ、瑞穂遺跡がそのころの集落の跡（弥生時代中期から古墳時代）とされる。

瑞穂遺跡で発見された遺物は、遺構（竪穴住居跡55戸以上、水を引いたとされる^{ほり}壕など）、弥生土器、銅の矢じり、勾玉^{まがたま}やガラス玉の祭祀用具^{さいし}などがある。瑞穂遺跡は、弥生時代からの遺跡とされるが、遺物には、縄文土器や竪穴住居、狩猟・漁の道具など縄文文化のものもみられるので、米作り生活中心の弥生文化のみではなく、縄文と弥生の複合した文化であったことがうかがえる。

また、弥生時代は青銅器・鉄器などの技術が大陸から伝わっているが、この文化を伝える代表的なものとして銅鐸^{どうたく}が区内で発見されている。「中根の銅鐸」として有名であるが人手に渡り、兵庫県西宮市^{たつま}の辰馬考古資料館にあり、国の重要文化財となっている。

～古くから人が住んでいた瑞穂区

瑞穂区の「遺跡」というこ跡は、「何千年も前から人が住んでいた」、「大昔に人の暮らし文化が始まっていた」ことを物語っている。永い歴史あるこの地域は、人々が長く住み続ける風土があり、環境や文化が変わっても人々が安住する場所なのかもしれない。

祖先が繁栄した跡？「古墳」

瑞穂区の古墳

弥生時代を経て米作りがさかんになるとその地に定住し、くらしが安定し人口が増え、人々は集まって生活をするようになった。集落（むら）ができることによってその中から力を持つ者も現われた。その有力者や豪族と呼ばれる人の「墓」を大きな丘の样につくるようになった。これが4世紀くらいから7世紀くらい（1,700年から1,300年前）にかけてつくられた「古墳」である。

瑞穂区には、古墳群といわれるほどの多くの古墳が残っていた。また、「塚」と呼ばれるものも加えると30を超える古墳が存在したといわれる。



「瑞穂区誌」

瑞穂区の古墳

No	古墳名	所在地	古墳の大きさや形状	現状
1	八高古墳	瑞穂町字西藤塚	全長約70mの前方後円墳	残存
2	八高2号墳	瑞穂町字西藤塚	直径30m、高さ2mほどの円墳	残存
3	高田古墳	高田町3丁目	全長約80mの前方後円墳	消滅
4	高田2号墳	高田町3丁目	不明	消滅
5	高田3号墳	高田町3丁目	不明	消滅
6	高田4号墳	高田町3丁目	不明	消滅
7	高田5号墳	高田町3丁目	長径11m、短径8m	残存
8	薬師寺古墳	本願寺町2丁目	直径5m、高さ3mの円墳	消滅
9	津賀田古墳	津賀田町2丁目	直径12m、高さ3mの円墳	残存
10	姫塚古墳	井戸田町3丁目	一辺12m、高さ3mほどの台形状のかたまり	残存
11	ためまる古墳	井戸田町1丁目	直径20m、高さ3mほどの円墳	消滅
12	劔塚古墳	井戸田町4丁目	高さ3mほどの円墳	消滅
13	おつくり山古墳	井戸田町4丁目	直径25m、高さ6mほどの円墳	消滅
14	おどり山古墳	村上町1・2丁目	高さ4.5mの円墳	残存
15	下山古墳	田辺通3丁目	丘陵端の円墳	消滅
16	瑞穂1号墳	豊岡通3丁目	直径15～20m、高さ4mほどの円墳	残存
17	瑞穂2号墳	豊岡通3丁目	直径30m、高さ5mほどの円墳	残存
18	瑞穂3号墳	豊岡通3丁目	台地縁の円墳	消滅
19	琵琶ヶ峯古墳	田辺通4丁目	丘陵端の円墳	消滅
20	井守塚	軍水町1丁目	直径15m、高さ2.5mほどの円墳	消滅

一覧は、過去の調査によって古墳とされたもの。「瑞穂区誌」

古い時代の瑞穂

～尾張国愛智郡

大化の改新（大化元年＝645年）により、私有地、私有民の廃止、条里制、戸籍と検地による班田収受の法の実施、はんでんしゅうじゅ 庸・調よう ちょうの税制の統一などが行われ、その後の大宝律令（大宝元年＝701年）で律令国家の基本が確立した。大宝律令では、地方を約60国に分け、500の郡、3,000の里を置き、国司、郡司などによって、政治が行われるようになった。「尾張国」はこのとき成立し、中島・海部・葉栗・丹羽・春部・山田・愛智・智多わみょうるいじしゅうの八郡からなっていた。（和名類聚抄＝平安中期の書物）

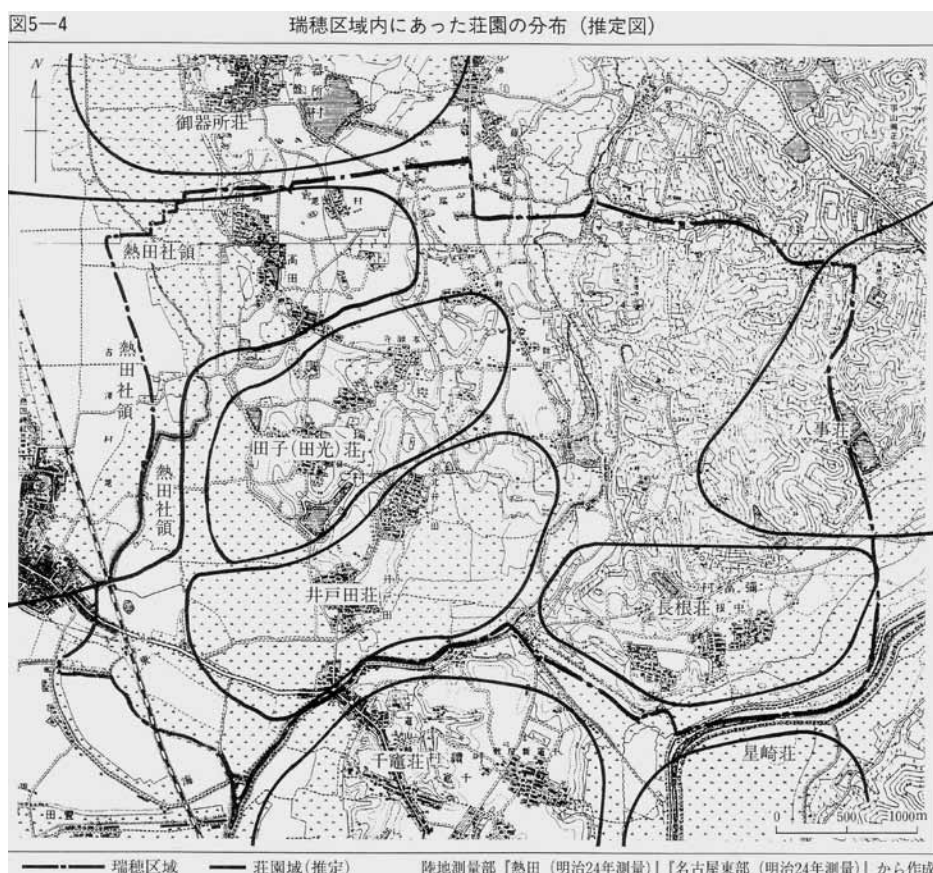
～瑞穂区の荘園

奈良時代～平安時代には、貴族や寺社が土地の開墾などを行い、大規模な私有地＝荘園が各地にできはじめた。

このころの瑞穂区には、田子（田光）荘・井戸田荘・長根（山田）荘・八事荘があったとされ、これらに加え熱田神宮の熱田社領があったとされる。

～荘園から「村」へ

鎌倉・室町・江戸時代と経て、武士が国を支配し、幕府が政治を行い、「藩」が置かれるようになると、田子（田光）荘は、高田村、本願寺村、大喜村。井戸田荘は、北井戸田村、本井戸田村。長根（山田）荘は、中根村。八事荘は、八事村。などに分かれた。



※なお、荘園や村の名のほとんどは、江戸時代のころの書物などで確認しているものであるので、古い時代では、その様な名称や地名であったかは定かではないものが多い。しかし、瑞穂区の古い地名は、江戸時代にはすでにあったものとされる。

「瑞穂区誌」

江戸時代から明治時代の瑞穂

～江戸時代の瑞穂区

江戸時代になると、名古屋城ができ、城下町もつくられ、名古屋が栄えはじめた。

万治年間（^{まんじ}1658～1661年）から尾張藩士兼松源蔵と浪人小塚源兵衛が、昭和区から瑞穂区にかけての荒れ地を開墾し、田畑にした。名古屋新田である。

瑞穂区は、田畑の広がる農業地域であり、熱田や城下町へ農作物を供給していた。

～明治時代「瑞穂・弥富」の地名誕生

明治時代になると、尾張藩に属したこの地域は、明治2年（1869年）に名古屋藩になり、明治4年（1871年）廃藩置県が行われると、名古屋県となり、明治5年（1872年）には、愛知県となった。

明治政府が発足し、先ず税収入の確保を図ることとなり、^{ちそ}地租改正が行われた。

地租改正は、米の取れ高でなく、地主に土地の質と面積で課税するので、入り組んだ村境や飛び地を一挙に解決するため、村を大合併させた。

明治9年（1876年）当時の県令（知事）^{やすばやすかず}安場保和によって、瑞穂台地の七村と名古屋新田は瑞穂村に、その後、八事丘陵の三村と名古屋新田は、弥富村となった。

合併後の新しい村	合併前の旧村名
瑞穂台地＝瑞穂村	高田、高田新田（中山）、大喜、北井戸田、本井戸田、本願寺、本願寺外新田（十五軒家）、名古屋新田（村上）
八事丘陵＝弥富村	中根、上八事、下八事、名古屋新田
東熱田村 ※明治11年	熱田

- ・瑞穂という地名は、明治元年9月（1868年）、明治天皇が、^{はっちょうなわて}八丁畷で稲の収穫作業を視察したこともあり、稲が豊かに実るところ（日本書紀の秋瑞穂之地）にちなみ命名されたと思われる。
- ・弥富は、「いや・^いとみ」とよび、^い弥は、いよいよ、ますますの意で、^{とみ}富は、ゆたかの意。組み合わせて、『ますます、ゆたか』な村となる。

※今の瑞穂区は、米を作らなくなっているが、区内の市立小中学校16校中、稲穂を校章にしている学校が8校（堀田・井戸田・穂波・瑞穂・豊岡・弥富小学校、田光・瑞穂ヶ丘中学校）ある。

～その後の瑞穂

- ・明治22年（1889年）名古屋市誕生（瑞穂区の村は、愛知郡）東熱田村→古沢村
- ・明治31年（1898年）古沢村→熱田町大字東熱田
- ・明治39年（1906年）瑞穂村→呼続町大字瑞穂 弥富村→呼続町大字弥富
- ・明治40年（1907年）熱田町大字東熱田→名古屋市熱田東町
- ・明治41年（1908年）名古屋市熱田東町→名古屋市南区熱田東町
- ・大正10年（1921年）呼続町大字瑞穂、呼続町大字弥富→名古屋市南区瑞穂町、弥富町
- ・昭和12年（1937年）名古屋市南区瑞穂町、弥富町→名古屋市昭和区瑞穂町、弥富町
名古屋市南区熱田東町→名古屋市熱田区熱田東町

瑞穂区の誕生

～瑞穂区誕生のいきさつ

瑞穂区の設置は、太平洋戦争末期の緊迫した中で行われた。

昭和18年12月18日、臨時市会に緊急議案として提出された、市長の説明要旨は、

一 昭和区を二分し、人口10万人ずつに分区する、消防署も分かれる、防空防衛の態勢を万全なものにする。

二 愛知県の警察の管区と、名古屋市の行政区を一致させる。

即日可決。

～昭和19年2月11日（1944年）、瑞穂区誕生

他に北区・栄区が誕生、栄区は翌20年に中区に編入された。

地域は、学区を単位として、旧瑞穂村と旧弥富村それに熱田東町を加えたもの、名前は瑞穂村にちなみ瑞穂区となった。

庁舎は、大喜の天理教東愛大教会の建物を借用し、講堂に、総務課と税務課が入り、道路に面した南に仮棟を建て、戸籍兵事課と経済課が事務を執り、米・衣料品などの切符配給を扱った。

その後は、空襲などの理由で、名古屋市立高田国民学校校舎、水道局第三出張所と移転し、昭和22年11月（1947年）に瑞穂区役所庁舎が完成し業務を開始している。

～瑞穂区空襲被害

- ・瑞穂区は、隣接する熱田区に軍需工場などや堀田通にも工場があったため、爆撃をされる目標となっていた。

- ・区内の死者は、174人、負傷者は、241人、罹災した者は、16,143人であった。

- ・被害を受けた建物などは、瑞穂区役所、第八高等学校、御劔・高田・瑞穂・汐路国民学校が全焼、区内38の工場が焼けた。

- ・名古屋市は、空襲が激しくなったため児童を「集団疎開」させる方針を出した。

瑞穂国民学校でも何人かが集団疎開をしているが、「空襲の最中、名古屋駅から出発した児童たちが、汽車の中から、名古屋城が空襲をうけ炎上しているところを見て、声を出す元気もなくなっただけで見ていた。」という話が残っている。

- ・津賀田神社や龍泉寺を始め、瑞穂区内の神社や寺も焼けたところがあり、貴重な文化財が失われている。

瑞穂区に整備された古い道

東海道

- ・江戸幕府は、日本橋を起点とした五街道と脇街道を整備し、駅伝制（一定の距離の間に駅を置き、公人や役人が移動しやすくしたり、ものを運びやすくした）を敷いた。
- ・東海道は、江戸から京まで 125里53駅を定め、今の瑞穂区内では、山崎橋から宮の宿熱田橋の間の10町（1,090.9m）。
- ・途中8丁（町）（約873m 1丁（町）=109.09m）は松並木で、「八丁なわて畷」といわれた。戦前まで少し残っていた。
- ・宿場の手前（熱田橋のたもと）に88番目の一里塚があったが壊された。
- ・道は、人や兵馬、物資の輸送で通るだけでなく、情報や命令なども道を通して伝えられた。
- ・幕府の道中奉行により厳しく管理されており、沿道周辺の村では、駅伝に人馬の不足するときには村高に応じ協力し、日常の道の清掃、補修も負担した。
- ・武士以外の往来が増えてくると、各地の色々な様子が伝わり、夢と憧れを運ぶ道となった。
- ・山崎橋のふもとに、旅人相手の商店や修繕屋が並び、井戸田出口組（今河岸端）となった。



※鎌倉街道

- ・鎌倉幕府が開かれたのち、政治の中心の鎌倉と京都を結ぶ街道が整備された。この街道を「鎌倉街道」と呼び、各地ではその街道の名残が伝わる道がある。
- ・瑞穂区内では、古渡から「高田、大喜、井戸田」を通り呼続へと続いたと伝わるが、実際のあたりを通っていたのか？諸説があるが、はっきりしていない。

郡 道

①千種街道

- ・明治40年（1907年）、熱田町が名古屋市に編入。愛知郡役場は、熱田市場町あったが、郡内で2番目に大きな町である御器所町へ移転した。
- ・愛知県は、新役場への交通の便を図るため、新しく道路を開通させた。県庁から飯田街道を通り、千種駅から南へ折れ、新役場に達する道で、同時に新役場から更に南へ、郡内の諸村を繋ぎ、東海道山崎に達するもので、（千種区千種町から南区呼続町字千竈^{ちかま}）南北の幹線道路として郡の管理とした。
- ・南部では千種街道、北部では山崎街道とも呼ばれたが単に郡道と言った。
- ・大正11年（1922年）、名古屋市に合併され愛知郡ではなくなったが、耕地整理組合が道路を造ったので、開通から百年経たが、未完成の所が残って居り、今でも郡道と呼ばれている。
- ・昭和6年（1931年）、市バスが井戸田―大津橋の間を通い、栄へ行く人達が乗った、町の内は道幅が狭く、第八高等学校（名市大山の畑キャンパス）の正面を通る所だけ道幅が広くなっており、バスのすれ違い場所であった、正門前バス停でたいていは、北行きが先に来て南行きが来るのを待った。

②平針街道

- ・区内には東西の郡道もあり、熱田神宮の東から中根を経て飯田街道の平針に達する道で、平針街道と呼ばれた。
- ・平針は駿河街道^{するが}の宿場で、北から足助街道、挙母街道^{ころも}が交わり、南へ天白川に沿い山崎に達する道があり交通の要衝であった。新三河鉄道のバスが神宮前―中根間を通った。
- ・大正11年、市営バスとなった。

③高田道

- ・第五中学校正門前（名経大高蔵高校）から西へ、熱田砲兵工廠^{ほうへいこうしょう}の正門（熱田区六野町）を通ると、門に剣付鉄砲^{ほしやう}の歩哨が立っていた。五中街道ともいい、第五中学校の生徒の通学路であった。
雁道・賑町商店街が街道沿いとなる。

里 道

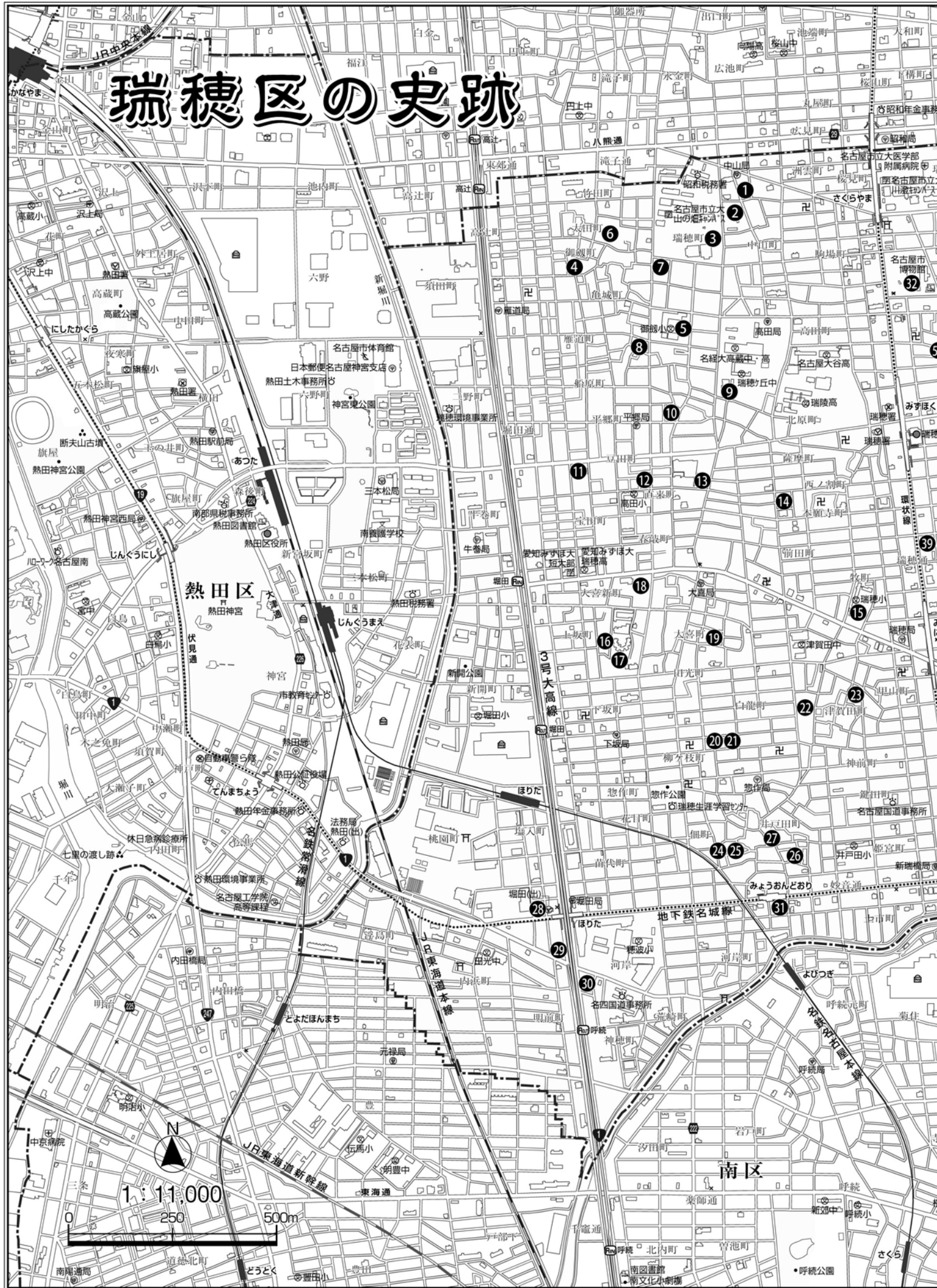
①井戸田道

- ・東海道山崎から北に分かれ、井戸田の集落を抜け、津賀田神社を通り過ぎ、本願寺村の薬師寺（本願寺町2丁目）を経て、十五軒家（東栄町）に至る経路は、瑞穂台地の後背地から、東海道へ出る南北の幹線道路となっていた、道は行き先の地名で呼び、北では「いどたみち」といった。

②塩付道

- ・塩付街道の名は、塩を馬の背に乘せ、山地の国々へ運ぶうちに自然発生的にできたといわれている。
- ・南区戸部町から東区古出来町までの道。瑞穂区内は、釜塚町から山崎川左岸を北上し、左右田橋あたりで川を渡り、瑞穂公園北陸上競技場^{かなえ}（鼎池）を西に迂回してから名古屋女子大学中学高等学校東側を北へ向き、汐路町などを通り、名市大病院の東のあたりから昭和区へ入った。

瑞穂区の史跡



「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の50万分の1地図及び2万5千分の1地形図を使用した。(承認番号 平23情使、第192-A37号)」



No.	名称
1	中山神明社
2	信正寺
3	八高古墳
4	八剱社
5	高田城跡
6	盛屋寺
7	金龍寺
8	富士八幡社
9	神之内八幡社
10	一之御前社
11	蛇塚遺跡
12	直来神社（直會社）
13	海上寺
14	八幡社・白山社
15	瑞穂遺跡
16	秋月院
17	大喜遺跡
18	田光八幡社
19	大喜寺
20	田光遺跡
21	白龍社
22	津賀田神社
23	天聖寺
24	おつくり山古墳
25	為麿塚
26	龍泉寺
27	長福寺
28	浜神明社
29	八丁堰址（八丁堰公園）
30	東ノ宮神社
31	藤原師長謫居跡
32	名古屋市博物館
33	東栄八幡社
34	村上神社・おどり山古墳
35	東山荘
36	正及神社
37	暮雨巷
38	善進寺
39	真好天神社
40	瑞穂古墳群
41	下内田貝塚
42	大曲輪遺跡
43	あゆちの水
44	中根銅鐸発見地
45	西八幡社
46	宝蔵寺
47	中根ノ城跡
48	東八幡社
49	観音寺
50	馬頭観音



瑞穂区のシンボルマーク

瑞穂のイニシャル「M」を花びらにアレンジし、中央に区内の名所山崎川の清流を組み合わせ、瑞穂区の限りない発展・躍進を表している。

瑞穂区の史跡

1 中山神明社 なかやましんめいしゃ 中山町 2丁目

創建 寛文7年（1667年） 祭神 天照大神^{あまてらすおみかみ} 例祭 10月中旬他

[境内神社] 津島社、秋葉社、熱田神宮、天満宮、龍神社

神明社由緒を要約

寛文7年 名古屋南寺町^{みなみでらまち}養林寺住職^{せんよしやうにん}専誉上人 愛知郡高田村字藤塚の古墳（八高古墳）^{ほこら}に祠を建立 天照大神を奉祀したのが神社の起源である。

元禄5年（1692年）吞良上人、宝暦4年（1754年）

明誉上人により、熱田大神、若宮八幡社^{かんじんごうし}を勧進合祀。

明治40年（1907年）

県立第五中学校、国立第八高等

学校開校のため現在地に遷宮。

大正12年社殿を造営。

昭和12年神域を拡張。

昭和14年、秋葉社、天王社を合祀。

昭和59年、神木を龍神として奉祀。

昭和62年大宰府天満宮を勧進合祀。



2 信正寺 しんしょうじ 中山町2丁目

創建 宝永3年（1707年） 山号 林栖山 宗派 浄土宗 本尊 阿弥陀如来

[寺宝] 半鐘 元文5年（1740年）^{いもじがしら} 鋳物師頭水野太郎左衛門 藤原貴正とある、戦時中供出を免れる。

明治年間 遠くの瑞穂小学校へ通う生徒の数が増え、一時分校が置かれた。

「尾張^{じゆんこうき} 行記」浄土宗養林寺末 信正庵、界内一反ノ養林寺領ノ内ナリ、今ハ寺号ニナレナリ。
むかしの中山町あたりは養林寺領で、信正庵が養林寺の末寺となったというもの。

～碑文に宝永3年（1707年）中山村念仏講中が村民の招福除災を祈願し建立したと刻してある。
(門前の石仏の由来について)

野佛は村境に奉置されたものであるが耕地整理、区画整理などのため過去二回設置場所を移している。

野佛右から、
千手観音^{せんじゆ}（除災安寧^{じよさいあんねい}）、十一面観音（除難招福^{じよなんしやうふく}）、
如意輪観音^{きゆうがんじやうじゆ}（求願成就）

～以上 信正寺石碑より



3 八高古墳 はちこうこふん

瑞穂町字西藤塚

名古屋市立大学山の畑キャンパスの構内に古墳が2基あるが、いずれも原型を失っている。

ひとつは、西向きの前方後円墳で、長さ70m、後円の径35m、前方の幅28m、高さ5m。

築造は、5世紀中ごろとの説がある。

もうひとつは、円墳で、直径30m、高さ2m。

また、近くの高蔵高等学校のあたりに、南向き前方後円墳があつたが、今はなくなっている。

八高古墳の名の由来は、名古屋市立大学のこの地がかつては、旧制第八高等学校であったため、この名が付けられている。

第八高等学校の正門が、文化財として明治村の正門として残されている。



4 八劔社 はっけんしゃ

御劔町 2丁目

創建 天喜4年(1056年)

祭神 建速須佐之男命、日本武尊、大伴武日命 例祭 10月体育の日

[境内神社] 源太夫社、白山社、山上社、社宮司社

天喜4年、熱田神宮の下宮八劔宮から神を分け祀られ、新八劔宮と呼ばれていたとことが、社の由緒にあり、創建はこの頃とされる。

明治44年 高田上之切に祀られていた熱田社を合祀した。

※学校・学区・町名にある、御劔(みつるぎ)は、八劔社にちなんで付けられたと思われる。



八劔社由緒

5 高田城跡 たかだじょうあと

亀城町 5丁目

高田村字城ノ内にあり、御劔みつるぎ小学校がその場所といわれている。

城域 東西59間(約108m)、南北28.5間(約52m)「尾張志」

村瀬浄心じゅんこうきが住んでいた。「尾張徇行記」 御器所城主に攻められ、城は陥落したと伝わる。

6 盛屋寺 せいおくじ

大田町4丁目

創建 天正2年（1574年） 山号 月桂山 宗派 曹洞宗 本尊 しょうかんぜおんぼさつ 聖観世音菩薩

天正2年 こがんけんりゅう 虎岩賢龍が、寺を開くと伝わる。

寺の墓地には、加藤利慶（江戸時代中期の陶工）の墓がある。墓石に、『土に出て つちに一期を過ごされて 土に帰のあら嬉身哉』の和歌が刻まれている。尾張藩より焼物師として認められたであろう陶工が、生涯を焼き物に打ち込めたことへの満足感を辞世の歌として残していることがうかがえる。



※加藤利慶 宝永5年（1708年）～寛政8年（1769年）

とよらくやき 豊楽焼（ほうらくやきが一般）を広めたとされる大喜豊助から焼物師としてさかのぼり初代の焼物師とする人。大喜豊助は、四代目。豊楽焼きは、外面に漆を塗って蒔絵を施したものが有名。他に豊八焼、豊助焼とも呼ばれている。現在の中区大須に住み、前津にあった大池という池の近くで焼物を焼いていたらしい。焼物は茶器と土風炉（湯を沸かす炉）など。



7 金龍寺 きんりゅうじ

亀城町5丁目

創建 昭和15年（1940年） 山号 瑞穂山 宗派 高野山真言宗 本尊 じゅういちめんかんぜおんぼさつ 十一面観世音菩薩

昭和15年、高野山大師教会名古屋支部として、高野山金剛峯寺より認可されてからが寺の始まり。山門両脇に阿吽の形相の仁王像。

- ・本尊は、昭和31年（1956年）、奈良県の長谷寺本堂東脇の夫婦楠を戴き、中川区尾頭（彫清）の仏師小山亀三郎が彫刻した。
- ・高さ7.6m、背光を入れると9m、屋内仏では市内最高の高さ。
- ・胎内仏は本尊の十分の一の十一面観世音菩薩。
- ・お百度は、大観音の足元で、真言（オン マカ キャロニキャ ソワカ）を唱え行う。年に一度（10月ごろ）、ふだんねんじゅぎょうどう「不断念誦行道」という24時間をかけて真言を唱え大観音の足元をまわる行（人が交替して）が行われている。
- ・脇仏に、ごしきふどうみょうおう五色不動明王、やくしにょらい薬師如来、びしゃもんてん毘沙門天がある。
- ・他に、弘法大師がめずらしく火焰を背負っている、「火防大師」という像がある。



8 富士八幡社 ふじはちまんしゃ

雁道町4丁目

創建 延享5年(1748年) **祭神** 富士権現 このはなさくやひめ あがた 木花佐久夜毘売 ほむだわけのみこと 縣八幡宮 品陀和氣命(応神天皇)

例祭 10月体育の日 [境内神社] 津島社、秋葉社、伏見稻荷大神

鎌倉時代に築かれた高田城(城主高田四郎重家)の城門の左右、鬼門にあたる^{まつ}ところに二つの宮をお祀りし、鎮守の森とされていました。その後、高田城は、御器所城主により落城し、二つの宮も衰えた。

文政9年(1826年)8月二つの宮を合祀して現在地にお祀りされた。

- ・大正時代まで、夏祭りに男獅子が奉納された。
- ・東に隣接し弘法大師堂があり、信奉者により、ご詠歌が唱えられている。



9 神之内八幡社 かみのうち(じんのうち)はちまんしゃ 北原町1丁目

創建 不詳 **祭神** 応神天皇 **例祭** 10月14日 [境内神社] すさのおのみこと 南新宮素盞鳴尊 すがわらみちざね 天満宮菅原道真
名称を堀内神之内八幡社ともいわれる。

南新宮は、熱田天王祭りの宵祭り(6月16日)には、疫病退散を祈るため、熱田まで提灯を奉納する習わしがあったが、神之内八幡社に奉納して、「提灯ヨ、バイバイヨ…」と帰ってもご利益は同じという代参の役割があった。

習わしは、大正の末期ごろまで伝承していたとのこと。
※ なべいしほこら 肴翁石祠に堅い石が祀つてある、石は弘法大師が諸国を巡っていた時、海上寺に立ち寄られ、石を叩きその音を聞いて、これは珍し唐より伝わる肴翁石だといった。この石をなでて、頭痛、歯痛、腰痛を祈願する。



10 一之御前社 いちのごぜんしゃ

平郷町5丁目

創建 不詳 **祭神** おおとものたけひのみこと 大伴武日命 やまとたけるのみこと 日本武命(日本武尊) **例祭** 10月中旬

※祭神 あらみたま あるいは、天照大神の荒御魂または日本武尊の荒御魂とも、

荒魂は、神様をお守りする強い神様。

[境内神社] 津島社、秋葉社、龍神社

由緒によると、『尾張誌』に一之御前社高田村にあり、永禄7年(1564年)当村の城主村瀬浄心勧請せし由…』と書かれ、少なくとも約450年以上は歴史のある神社であるとされる。

拝殿の前に、黒龍王・白龍姫大神(龍神社)が祀られているが、かつては、社の東に朝田池や清水の湧き出る所があり、一帯に住む人びとの龍神に対する(水の恵みなど)感謝の念から社があるもの。



高田村には、水が深くよどんでいるところがあり、牛巻淵と呼んでいた。

そこには、大蛇がすんでおり、付近を通りかかった牛馬をよく巻き込んで人々を困らせていた。

弘治2年（1556年）熱田神宮神官大原真人武継が、神宮の帰り道、東の空に黒い雲がたれ、牛巻の淵に怪しい光が見えた。これは、かねてから人々を困らせている大蛇だと思い、家から弓矢を取り出し駆けつけたところ、思ったとおり大蛇が現われた。武継はやつぎ早に射かけ大蛇を退治した。あとになり、村人は蛇の祟りを恐れ、かたわらに埋め蛇塚となった。

※この伝説は、牛巻の町名の由来となった。

- ・高田小学校の北東の直来町、豆田町一帯は、元は“蛇塚”という地名がついていたところで、瑞穂台地の西縁につづく小高い丘だった。
- ・大正9年ごろ高田小学校の北よりで東郊耕地整理組合が土取作業をした時、多量の土器が出土した。
- ・豆田町の大悲堂の境内に塚が1基ある。大悲堂は、如来教 本尊は釈迦牟尼如来尊 教祖「りゅうぜんきの」が開祖。

12 直来神社(直會社) なおらいじんじゃ(なおらいしゃ) 直来町4丁目

創建 不詳 祭神 神直日命大直日命 例祭 4月7日

[おできの神様の伝説] 木曾義仲は、都で義兄頼朝を助け源氏の地盤を築く軍功があつたが、都人への狼藉があり、追放となり殺されてしまった。一行が落のびて行く途中、桂姫のできものが酷くなりこの地で死んだ。この姫を祭ったのが神社のおこりとされている。おできは神木の下で小石をなでると治る、あとで小石を献納する。

*直来の由来：二説をとりあげる。

①高田は熱田神宮領であつたので神宮に因む地名が残っている、直會（直会）は、祭事のあとに神様と共に お供えのお下がり で 食事をして解散すること。高田では馬の塔の合宿の任を終え たとき、直会をした。いつの間にか会（らい）を来る（らい） に当てた。

②室町時代、このあたりに本願寺があり、阿弥陀如来がご本尊であつたとのことがあり、おできの伝説の桂姫が本願寺に葬られたとされ、そのお寺さま＝（ご本尊の）如来さま→ようらい→のうらい→なおらいさまとなり、廃仏毀釈で仏教から神道に替って、直會社となった。

- ・直會社は、昭和34年（1959年）神社庁に申請して、直来神社と改めた。



おできの伝説由来

13 海上寺 かいじょうじ

直来町5丁目

創建 寛永16年（1639年）山号 竜王山

宗派 真言宗豊山派

本尊 ^{あわ}粟薬師如来 弘法大師作と伝えられる。

客殿の本尊は、^{ちばな}乳花薬師如来。

母乳満足と幼児の息災守護で知られ、乳授けを願う人は綿花で作った乳形のぬいぐるみを奉納し、乳が多すぎる人は、乳預けをするという珍しい信仰で「ちばなやくし」の名で親しまれている。

〔寺の名の由来〕むかし、寺の下あたりまで海が入り込んでいました。潮が満ちてくると熱田神宮からこの辺りをみるとまるで海の上に建てた寺のように見えたようです。



14 八幡社・白山社 はちまんしゃ・はくさんしゃ 本願寺町2丁目

創建 不詳 祭神 八幡社 応神天皇 白山社 ^{くくりひめのみこと}菊理毘売命

例祭 10月第2土曜日

〔境内社〕お常稲荷2社、津島社、秋葉社

※社殿二神を一つの本殿に祀る。

創建は不詳だが、寛文末期（1670年ごろ）に編集された「寛文村々覚書」に八幡社鎮座の記録があるため、少なくとも340年以上は鎮座していることとなる。～八幡社案内より



・ 柏の木

拝殿右手にある神木「柏」は、名古屋市の保存樹として「瑞穂第1号」としている。樹齢は300年以上と鑑定されている。

15 瑞穂遺跡 みずほいせき

牧町1～3丁目、豊岡通2丁目

瑞穂小学校を中心とした200㎡四方内には、弥生時代から古墳時代にかけての、竪穴住居が複合を合わせ55戸^{かんごう} つかっており、環濠の跡や先祖が使用した石、土、銅、ガラスなどの道具が沢山見つかっている。種類と量と形が整っているのが特徴。

これまで何度か発掘調査が行われ、最近の発掘調査としては、名古屋市見晴台考古資料館による、平成13年、道を隔て西の住宅建て直しの土地での調査と平成20年に夏休みに校庭を掘り起こし調査を行っている。いずれも遺跡、貝塚、土器片を確認した。

表紙の写真は、瑞穂小学校で出土した弥生式土器で、学校に保管されているもの。



16 秋月院 しゅうげついん

大喜町1丁目

創建 慶長3年（1598年） 山号 弓頭山 宗派 曹洞宗

本尊 ^{あいけいやくしるりこうによらい} 愛敬薬師瑠璃光如来 ^{もんじゅぼさつ} 脇仏 文殊菩薩、^{ふげんぼさつ} 普賢菩薩、^{しんしゅう} 十二神衆等

（弘法大師作と伝わる。秘仏として安置されている。）

秋月院の由緒要約～

本山は、永平寺、総持寺 本寺は、下野国（栃木県）大中寺
熱田神宮の東の田島に創建され、その後、昭和13年（1938年）
現在の地に移転。寺は、今川義元の弟の今川氏豊の娘によって開かれ

た。娘の法名を秋月院といい寺号とした。山号は、その夫「中野又兵衛尉重吉」が、^{あずきざか} 小豆坂七本
槍の一人で、弓衆を束ねる者であったため、弓頭山とつけられた。

〔秋月院最古の碑〕秋月院の「へそのお」をまつたとされる石碑で、慶長年間（1596～
1615年）に建立と伝わる。

※ ^{なかのまたべえいじゅうきち} 中野又兵衛尉重吉（^{かずやす} 中野一安）

- ・織田信秀（信長の父）の家来の時、織田方と松平・今川連合軍が合戦を行った小豆坂で功名を得て小豆坂七本槍の一人と数えられた。
- ・小豆坂は岡崎城に近いところにあり、この合戦は、天正11年（1542年）に行われ、小豆坂七本槍の奮戦によって織田軍の勝利に終わっているという。合戦は、尾張から西三河へ進出してきた、織田信秀の軍と岡崎城主松平^{ひろただ}広忠（徳川家康の父）と弱体化している松平氏を救援する今川義元の連合軍の戦いであった。織田軍が勝利したが天正17年（1548年）再びここで合戦があり、この時は、^{たいげんせつさい} 太原雪斎を大将とした松平・今川連合軍が勝利している。
- ・中野は、「本能寺の変」後、秀吉に仕え、その後、関白豊臣秀次（秀吉の甥）に付き、秀次死後は、浪人となったが、秀吉から三千貫の地を受けたとされる。



17 大喜遺跡 だいぎいせき

大喜新町 他

大喜遺跡の範囲は、しゅんこう春敲町遺跡、かげがみ田光遺跡、欠上貝塚などを指す、瑞穂台地の西南端の海に面した遺跡群。

- ・欠上貝塚 昭和14年（1939年）土木工事の際発見、面積280㎡、表土下20cmのところに貝の層30cmがあった、貝層の下に褐色有機土があつて地山に達していた。
貝は、ハイガイが最も多く、その他には、カキやオキシジミがみられた。
土器は、弥生時代から古墳時代の、壺、台付き壺、高杯が出土した。
- ・春敲町遺跡 昭和33年（1958年）中部電力の社宅建てる時、遺跡が現れ、土器が出土。
大喜村は大喜町と新屋敷である大喜新町とに分かれたので、大喜新町にあるのを大喜遺跡と言うのは混乱する、大喜町にも沢山の遺跡がある。

18 田光八幡社 たこうはちまんしゃ

大喜新町3丁目

創建 延暦元年（782年）

祭神 神宮皇后、応神天皇、仁徳天皇 例祭 10月第2月曜
〔境内神社〕白龍社、黒龍社、八剣社、秋葉社、津島社、白山社、
田光稲荷社

社の由緒によると、延暦元年（782年）に熱田神宮の神官もりべきみひこしろう守部公彦正が社を建てたのが始まりとされる。

尾張名所図会の記載によると高さ約40mの大きな楠くすのきは、弘法大師お手植えの七本クスノキの一本とされる。木の根元には白龍が住んでいると伝わる。

元禄の頃まで、熱田神宮の社僧が祭礼に大般若経を奉つていた。

鳥居は、皇室の御大典、御成婚、御生誕を機に建て替えられており、八幡鳥居、神明鳥居がある。

また、境内には枝に体を寄せお願いすると痛いところがあるというけやき欅の木と「夫婦和合の木」というむく えのき椋と榎の木がある。

神社の周囲は、区画整理事業で削られ元の地形は残っていないが、弥生時代の遺跡や遺物が出土し、又北山には大松石地蔵があった。→19 大喜寺



白龍社



クスノキ

19 大喜寺 だいぎじ

大喜町3丁目

中興 ^{しょうほ}正保元年（1644年） 山号 増益山 宗派 真言宗

本尊 ^{たいぞうかいだい}胎蔵界大日如来

もとは高野山弥勒院の末寺で、創建は不詳であるが、本尊が大同年間（806～810年）の作とされているので、本尊の存在から、奈良・平安時代までさかのぼる。

- ・本尊大日如来は、大同年間の弘法大師作の秘仏、60年に一回御開帳される。
- ・大師堂内、本尊左右に一对の時計燈明台があり、^{きやうほ}享保8年（1723年）7代藩主宗春の母宣陽院より賜ったもので、前面に葵の紋が入っている。
- ・庚申堂に青面金剛像を祀る、天保6年（1835年）の 銘。
- ・明治9年（1876年）瑞穂台地の6村が合併し瑞穂村となり、第24番小学井手学校（瑞穂小学校の前身）は、瑞穂学校と名を替え、場所が村の中央にあたる大喜寺に移った。戦後も本堂が仮校舎となった。



- ・大松石地蔵は、尾張最古の石地蔵とされる。（鎌倉時代といわれている。）田光神社の裏になる元興寺墓地の寺山にあったのを、明治の初め神仏分離令で当寺に移された。地蔵塚の大松の下に祭られていたことから大松石地蔵とよんでいる。

大喜寺には、寺山の^{くまそ}大松石地蔵始め、幾つかの石像が寄せられた。



20 田光遺跡 たこういせき

田光町3丁目

- ・出土したもの
 - 1 縄文時代の竪穴住宅の跡、土器の破片。
 - 2 弥生時代の、土器、まゆの形をした石錘、凹み石。
 - 3 猿投窯の^{むゆう}無釉陶器の破片。

幾時代も人が住んでいたようで、各時代の生活の遺物が重なって見付かった。

- ・田光池というため池がかつてあり、その北が台地の端で、区画整理でため池を埋め立てようと周囲の台地を削った時に、発見された。

- ・「景行記」27年（12代天皇のころ）^{くまそ}熊襲を平らげようと西へ行かれた日本武尊に従った尾張^{たこのいなき}田光之稻置が住んでいた。確認される最も古い地名とされる田光の名の由来となる。

21 白龍社 はくりゅうしゃ

白竜町1丁目

創建 昭和13年(1938年) **祭神** 白龍大王 **例祭** 7月 [境内社] 尾白稲荷社

・古来、田光ヶ池の畔^{ほとり}には、大きな穴があり、そこには池の主である大蛇が住んでいると伝えられていた。境内にこの穴の跡がある。

・昭和13年ころ、田光ヶ池を埋め立てる際、さまざまな災い起きた。人々はこの災いを池の主の怒りによる祟りだと考え、白龍大王としてお祀りし、この地の加護を願い、池の畔の穴の近くにお社を建てお祀りした。

※白竜町の町名の由来にもなっている。



22 津賀田神社 つがたじんじや

津賀田町3丁目

創建 不詳(平安時代以前) **祭神** 津賀田大神、天照大神 **例祭** 10月

・『本国神名帳』に従三位津賀田天神と記載されている。

[津賀田の名] 由来は諸説あるが、ツガタという呼称であることや昔の地図によると海が近く入り江であったことから「津^{つがた}潟」であったと考えられている。

・古来、神様より新たな生命力を賜るという御生の信仰があり、若返りの宮である「若宮」とも呼ばれ人々に親しまれていた。

・井出庄本井戸田村にあったことから「井戸田の八幡社」や「氏神八幡宮」と呼ばれたり、境内に松原が長く続いていたことから「長森八幡」とも呼ばれたりしていた。

・源頼朝がこの地において生誕し、津賀田神社の神宮寺であった「亀井山龍泉寺」境内の亀井水を産湯として用いたことから、神社が源頼朝^{うぶすながみ}の産土神との伝承がある。

・弁慶などが平家追討のおり、神前で大般若経^{だいはんにやきょう}を唱え祈願したところ、祈願が成就したとの伝承がある。また、この祈願の際に大雷雨がおさまったことから、当時の経文^{けいぶん}は「雷よけの経文」と呼ばれている。



23 天聖寺 てんしょうじ

津賀田町 2 丁目

創建 寛永元年（1704年） 山号 亀獄山 宗派 曹洞宗 本尊 聖観世音菩薩

円通寺首座、然了存廊和尚が当地に観音堂を建立し、享保2年8月（1717年）、円通寺10世密山以傳大和尚を開山として勧請し亀獄山瑞巖寺を開いた。

寛政9年5月（1797年）、寺格の昇級によって、寺名を「天聖寺」と改めた。

[山号の由来] この付近は細かい起伏が連なっており、亀の甲羅の上を行くようであるため。

[境内地蔵尊] 地蔵尊の下は、納骨ができる。水子や故人の骨を納め小さい地蔵尊を作って安置する。

[門前の石仏] 十数体の石仏が並んでいる、種類も大きさも石材もばらばらなのは、観音さま信仰

の近在の人々が西国坂東等33観音参りの満願を祈念し、納められたもの。胸に赤ちゃんを抱えた子安地蔵（妊婦を護る）もある。

- ・明治24年（1891年）、瑞穂学校（瑞穂小学校の前身）が置かれていた。
- ・昭和20年（1945年）、空襲にあい建物が全焼するが、本尊は、防空壕へ退避したため無事であった。



24 おつくり山古墳跡 おつくりやまこふんあと 井戸田町 1 丁目

- ・西塚とも呼ばれた、おつくり山古墳は、井戸田学区の安楽寺近くにあった古墳。
- ・古墳の築造年代は、五世紀後半とされる。
- ・昭和3年（1928年）に壊されなくなった。
- ・当時調査されており、その時の残存状況は、墳丘の大きさ直径約16m（推定の直径約26m）、高さ6mの円墳であったとのこと。
- ・調査では、「土の壇を築き、その上に遺品、遺骸を置き、後から粘土をおおって墳丘を築いたものようである。」と報告されている。

[出土品] 鏡、刀、剣、鉄鉾（ほこ）、鉄鏃（やじり）や鈴、ガラス玉などが見つかった。

出土品は東京国立博物館に保存されている。

25 為麿塚 ためまろづか

井戸田町 1 丁目

ながおかためまろ

- ・長岡為麿という元禄期（1688年～1704年）の熱田神宮祠官（神官）熱田神宮の復興に力を尽くしたという。老後、神官の職を辞してこのちに住んでいた。
- ・為麿が唱えだした神道が一時大流行した。また、書道の神様ともいわれたという。
- ・「尾張名所図会」井戸田おつくり山の西の麓に為丸塚がある。

安楽寺境内にためまるさまと呼ぶ自然石の立石立てた祠があった。直径18m、高さ3mの円墳とされる。

- ・安楽寺

開基 明治12年（1879年） 山号 為麿山 宗派 浄土真宗大谷派 本尊 阿弥陀如来

26 龍泉寺 りょうせんじ

井戸田町4丁目

開山 ^{おうにん} 応仁元年（1467年） 山号 ^{きせいさん} 亀井山 宗派 曹洞宗 本尊 薬師如来 聖徳太子作と伝わる
・薬師寺という大寺があり、^{ぎょうき} 行基が（670～750）開基したという。密教（真言宗）の道場となり、龍泉庵、龍雲庵、福伝庵、妙喜庵、蔵伝庵の5庵があり、笠寺（南区）と規模をあらそうものであったという。応仁の乱（1464年）の頃、龍泉庵のみ残り、亀井山龍泉寺となる。

・室町時代末期 妙仙和尚のとき、寺は曹洞宗となる。

・[雷除大般若経由緒] ^{げんりやく} 元暦（1184～1185年）年中、源義経が兄頼朝を助けに京へ登る途中、頼朝の生誕地井戸田へ来て、産土の神津賀田神社に参拝し、武運長久を祈願した時、激しい雷に会い肝をつぶし、般若心経を一心に読誦したところ、雷が止んだので心慮を感謝し、大般若経を心願って書き写した。

その後、寺では雷除けの大般若経の奉読を行い、そのため井戸田には雷が落ちなかった。

・「^{かいいんどう} 槐隠堂記」^{しょうとく} 正徳3年（1713年）刊 [槐隠堂] 江戸時代 師長公が龍泉庵の庭を好み、常に訪れたという古事にちなみ、槐隠堂の額を掲げる。建物は昭和20年空襲で焼失した。

槐隠とは、槐（えんじゅ）の木陰。

周の時代に朝廷に「槐」を三株植え、三公はこれに面して座ったという故事にちなんでいる。

藤原師長と仕えていた女性（槐女）の話→31 藤原師長謫居址

・明治6年（1873年）瑞穂で最初の小学校、第二十四番小学井出学校（瑞穂小学校の前身）が置かれた。

※亀井の水

源頼朝は^{きゅうあん} 久安3年（1147年）誕生。産湯に薬師寺龍泉庵の井戸水を使った、「龍泉寺門前の井」がそれで、亀井の名は津賀田神社社守 亀井忠太夫の屋敷が近くにあった。



※ただし、源頼朝の誕生に関しては別の伝承がある。

・誓願寺（せいがんじ）熱田区

浄土宗西山派、山号は妙光山（みょうこうざん）。

^{きょうろく} 享禄2年（1529年）創建の尼寺。

創建以前の久安3年（1147年）に、鎌倉幕府を開いた源頼朝がこの付近で誕生したといわれ、産湯の井戸といわれるものが境内に残っている。



亀井水の碑

27 長福寺 ちょうふくじ

井戸田町3丁目

創建 ^{えいしやう}永正7年(1510年) 山号 喜覚山 宗派 曹洞宗 本尊 聖観世音菩薩(運慶の作)
熱田円通寺末寺

- ・永正7年、泰陽讃公和尚開山。
- ・古くは奈良時代に、妙喜庵といわれ、現在地より西南、妙音通あたりにあったという。
- ・「張州府志」柏谷藤太信重 所仰崇也。
- ・「尾張徇行記」長福寺書上書によれば、コノ寺草創ハ天正年中ニ讃公和尚開基也。

境内地藏堂一字是ハ先年呼続浜ニアリ、於今浜ノ地藏ト言フ。

- ・昭和47年(1972年) 本堂改築のおり、本堂下7mの所に、弥生時代の用水路遺構の側杭群が確認されている。

28 浜神明社 はましんめいしゃ

塩入町

再建 昭和15年 祭神 天照大神

- ・かつては、^{はつちやうなわて}八丁畷の中ほどにあり、この社のある浜から伊勢神宮を拝むことができる遥拝所であった。
- ・明治41年(1908年)社寺分離令で、神主のいない祠として廃止されることとなり、津賀田神社へ合祀された。

- ・昭和15年(1940年)津賀田神社から再び^{せんざ}遷座し、浜神明社を再建した。

[^{とちやうきしんひ}斗帳寄進碑] 碑面に慶長廿(20年)(1615年)「ア(梵字)天照皇太神宮御神前奉掛斗帳悉池成就祈所」、アとあるは、胎藏界大日如来を表す。(2本の碑の内一つは津賀田神社に残る)斗帳とは、社殿の垂れ幕のこと。

[^{つきまちくようひ}月待供養碑] 碑面に天正17年(1589年)巳丑5月とあり、市内最古の供養碑である。
名古屋市指定文化財。

「敬白十七夜待開眼供養の所、尾州愛知郡分野住人四郎五郎、現世安穩後生善所」とあり。三つの○の中の梵字は、本尊に^{せいしぼさつ}勢至菩薩、脇侍に^{びしゃもんてん}毘沙門天、^{ふどうみやうおう}不動明王とあり。
^{わけの}南区分野には、天から降った鎌の柄を御神体とする伊勢講の流れが今も続いている。
月待供養は、室町時代から続く、特定の月齢の夜に講を開いて、村人が飲食を共にしながら、月の出を待つ。

※^{さいぎやう}西行腰掛石 堅い河戸石に、西行法師が腰掛けたときの手の跡とする手形が彫ってある。



月待供養塔

29 八丁噺址 はっちょうなわてあと

八丁噺公園は 河岸一丁目

東海道の山崎橋あたりから宮の宿までの間、八丁（約 873m 1丁（町）＝109.09m）に松並木が植えられ、海上から遠望すると一筋の縄に見えるから、八丁縄手といった。

- ・戦前まで、その松並木が残っていた。
- ・「武江年表」慶長9年（1604年）のころ、道の左右へ松を栽（う）えられ、夏は木陰に休らい、冬は風を除きて、旅人の裨益（ひえき）となし給えり。
- ・空港線松田橋交差点西北に「八丁噺公園」（国土交通省）があり、「東海道分間延絵図」を見ることができる。

図には、山崎・熱田間に、松並木が描かれており、八丁噺が確認できる。

公園の案内には、「天正3年（1575年）織田信長が、4人の奉行をおき、道の整備をしたとき、“浜の道”が作られ、八丁噺付近も道が整備された。その後、東海道として整備された、、、」とある。また、公園には昔このあたりに架かっていた松田橋が復元されている。



松田橋 復元



東海道分間延絵図

30 東ノ宮神社 ひがしのみやじんじゃ

神穂町

創建 不詳 祭神 ^{あまてらすおおみかみ}熱田大神、^{すさのおのみこと}天照大神、^{やまとたけるのみこと}素盞鳴尊、^{みやすひめのみこと}日本武尊、^{たけいなどねのみこと}宮簀媛命、^{いわくらともみ}建稲種命

[明治天皇覧穫之碑（めいじてんのうらんかくのひ）]

- ・明治元年9月26日（1868年）、明治天皇は遷都のため、京都から東京へ移動する途中、熱田に到着、当時の藩主徳川慶勝に、今年の稲の出来具合を尋ねたため、翌27日、八丁噺に場所を設け、庄屋加藤甚右衛門以下男18名女5名による、刈り取りから俵詰までの収穫作業の準備をして待った。正午、明治天皇は通過の途中、松並木の陰に座り、収穫の様子を視察した。随行の岩倉具視は、農民から稲穂を手づから取って、天皇にみせた。この時代に天皇が農作業を視察することは異例のことであった。
- ・大正2年（1913年）、この記念碑を建てる話が持ち上がり、9月地鎮祭を行い、11月竣工、除幕式をおこなった。
- ・奉納された田では、田植えの時期になると、田植えの舞いがあり、神官が田に入り苗を植えた、小学校の見学もあったが、伊勢湾台風で冠水し、以後中止となった。
この田のあった地域を「神穂」と呼び町名の由来となった。
- ・熱田神宮は土地を売り、やや離れた一隅に東の宮神社を建て、関係する記念碑を集めて、管理を地元3町内に委託した。

31 藤原師長謫居跡 ふじわらもろながたつきよあと 土市町1丁目

(碑の立っている場所)

治承3年(1179年)太政大臣藤原師長公は、平清盛により井戸田の地に流された、近くの龍泉寺で出家し『理覚』と名を改める、琵琶をよくするので徒然に弾いていた、熱田神宮の御前では、神明感応に絶えず宝殿大いに震動した、罪が解け京へ帰るとき、側に仕えていた村長横江深光の娘が、別れを惜しみ枇杷島まで見送り、別れを告げられ形見に貰った白菊の琵琶を抱いて水死した。※白菊の琵琶は、「幻の琵琶」といわれ熱田神宮から尾張徳川家に伝わり、その後、焼失したものと伝わっていたが、平成22年、宮内庁三の丸尚蔵館に所蔵されていたと発表され、徳川美術館で公開された。

現在の碑は、嶋川稻荷境内に移転させたもの。

治承4年(1179年)後白河上皇の幽閉が解かれると師長も京へ帰った。

建久3年(1192年)師長は55年の生涯を閉じた。法名(戒名)を妙音院と号した。

※妙音松と言う古木あり、横江の子孫が記念に樹上に祠を立て、これを姫宮と称した。

※最高の官位太政大臣まで上りつめた師長は、貴族としての教養があり、特に音律を好み琵琶、琴の才能が優れていたため、戒名を妙音院と付けられたとされる。

瑞穂区では、師長にちなみ、師長町、妙音通の町名がある。

32 名古屋市博物館 なごやしはくぶつかん 瑞穂通1丁目

開館 昭和52年10月1日(1977年)

所管 名古屋市教育委員会

- ・名古屋市の人口200万人突破を記念して建設された。
- ・名古屋を中心とする地域の歴史資料の収集保存、調査研究、展示を行う歴史総合博物館。館蔵品・資料など22万点以上が保管されている。



33 東栄八幡社 どうえいはちまんしゃ 東栄町5丁目

創建 不詳 祭神 応神天皇 例祭 10月中旬

このあたりは、本願寺村から独立し本願寺外新田といわれた。

「尾張徇行記」

①新田には、藩士寺尾土佐守が与えた屋敷あとに15軒が住み始めた。よってこの地名を十五軒屋という。

②熱田社家 栗田宮部太夫支配とある、御師でもある、津賀田神社の支配。



34 村上神社 むらかみじんじゃ おどり山古墳 おどりやまこふん

村上町 2 丁目

創建 不詳 祭神 熱田大神 [境内社] 熱田社、津島社、秋葉社 玉垣は大正 9 年（1920 年）建立

- ・おどり山古墳の墳頂に、神社は祀られている。

古墳は高さ 3.6 m、直径 40 m の円墳、周囲に幅 2 m の浅い環濠があった。

今は、大きく削られ、長方形の高台となっている。古墳からはなにも出土していないが、北で須恵器はそう（胴に穴のあいた口広細くびのつぼ）を採取している。

5 世紀後半の円墳とされる。

- ・天保年間（1830～44）には、真好真如天満自在天神が祀られていた、明治 2 年（1869 年）に、今の瑞穂通 4 丁目に遷座され、跡に地元の方により村上神社が祀られた。

※村上の地名は、寛文 6 年（1666 年）藩士村上治兵衛が、この辺り一帯を開墾した「村上新田」にちなみ昭和 6 年（1931 年）町名に付けた。

※神社の北、大殿（おとど）町は、おどり山を他に「おとど山」ともいわれたということから付けられたとされる。



35 東山荘 どうさんそう

初日町 2 丁目

瑞穂区の東部丘陵は、樹木に包まれ、西の名古屋台地から眺めると京都東山連峰に似ており、名古屋の東山と呼ばれていた。

- ・明治から大正にかけ、各地に紡績工場や織物工場が稼働し、名古屋港では、綿花を輸入し綿布を輸出する額が上位を占めていた、中区鉄砲町で綿布を取扱い財をなした伊東信一は、大正初年（1912 年）東山の山崎河畔に 12,000 m² の山林を買い、地形を生かした回遊庭園、茶人の粋を凝らした 160 坪の建て物、東山一の山荘を大正の初めから大正末にかけて作った。
- ・昭和 11 年（1936 年）名古屋市に寄贈、公開される。
- ・正門は、入母屋、茅葺、四阿風の構え、門扉に家紋、拉竹張の土塀、裏千家の門に似てると言う人もある。
- ・庭園は、春日灯籠、つくばい、庭苔、枯山水、滝、橋を巡る。
- ・書院は、三方を縁で囲まれている、次の間との仕切りの襖は金壁、遠山が描かれている、欄間花模様は象嵌。
- ・茶席 東丘庵 天井が高い。
西仰庵 四畳半床の間付き、床柱がない、
真ん中の桂が藤の天然木で目を奪う。
- ・昭和 23 年（1948 年）仰西庵の西、滝の上にあった茶席清雪庵は、熱田神宮に寄進、北神池のほとりに移築された。



36 正及神社

しょうきゅうじんじゃ

田辺通2丁目

創立 享保元年（1716年） 祭神 徳川家康朝臣 東照大権現

配祀 萩山真好社 祭神 菅原道真公。

「正及神社沿革」より～

『毎年、日光東照宮へ参拝していた尾張藩士鍵谷伝衛門は、6代尾張藩主徳川継友から、尾張藩内に新宮の勧進を命じられた。伝衛門は同士と相談し風光明媚な八事丘陵の地を選び社殿を創建した。』

- ・昭和7年（1932年）区画整理事業により幹線道路の建設が始まり、従来南向きであった本殿と参道を日光東照宮向きの東向きに直し、御遷宮された。
- ・昭和22年（1947年）神社社格の改格があり、以前は村社であったが、新しくは12等級に列せられるている。
- ・昭和32年（1957年）氏子の運動により、社名を正及社から正及神社に改名し、旧郷社に相当する9等級に列せられる。



37 暮雨巷

ぼうこう

陽明町2丁目

木造、平屋建、切妻造、^{さんがわらぶき} 棧瓦葺住宅

- ・宝暦13年（1763年）前津の台地に沿った瑞穂を望む地（中区大池町前津）に、藩士野崎の別邸龍門園が使われなくなり、俳人^{くむらきょうたい}久村暁台が買い取り、修理を加え居を構えた、暁台の俳号は暮雨巷で、建物を暮雨亭と名付けた。

暁台は、藩士であったが、母方加藤家に養子に入り、知多郡の在所の地名久村を名乗った。

暮雨亭では^{よさぶそん}与謝蕪村、^{よこいやゆう}横井也有、^{まつむらげつけい}松村月溪などの俳人を集め、酒を酌み交し俳論を戦わした。

- ・天明6年（1786年）まで、暁台が住んだ。その後は、持ち主が変わっている。
- ・大正10年（1921年）瑞穂区の現在地に移築。
- ・昭和22年（1947年）東海銀行（三菱東京UFJ銀行）が譲り受け暮雨巷とした。
- ・昭和38年（1963年）愛知県指定有形文化財に指定された。江戸期の俳人の住宅として、貴重な建物であるとしている。なお、暮雨巷に接している3つの茶室は、大正期に繊維問屋中村貫之助が建てたもので、文化財には含まれていない。

※^{くむらきょうたい}久村暁台（加藤暁台）

江戸中期の俳人。名古屋三俳人のひとり。（横井也有・久村暁台・井上士朗）

享保17年（1732年）名古屋に生まれ。寛政4年（1792年）61才で没した。

名古屋を中心に俳人として一大勢力を誇り、二条家から中興宗匠（俳句を盛り上げた師匠）の称号を与えられた。

テレビ塔のもとに「名古屋三俳人句碑」があり、暁台の句が紹介されている。

「椎の実の板屋根を走る 夜寒かな」

他に笠寺観音に「暁台塚」という句碑がある「さむ空にたゞ暁の 峰の松」

38 善進寺 ぜんしんじ

陽明町2丁目

創建 明治2年（1869年） 山号 開道山 宗派 日蓮宗 本尊 いっとうりょうそんよんぼさつにじゅうしてんのう 一塔兩尊四菩薩二士四天王

明治2年、千葉縣市川市にあった「日蓮宗大本山法華経寺」にあった「善進坊」をここへ移し開山した。

- ・明治の頃から土用丑の日に、日達上人が考案した、すりばちを頭に被せ上からお灸を据える、頭痛に効くという「すりばち灸」があつたが、今はやっていない。
- ・切支丹灯籠と思われるものがあるが、いつから当寺のものとなったかは不明である。

※切支丹灯籠

織部形といって、古田織部が考案した（？）とされる灯籠と同一のものであるとされる説や全くちがうものであるという諸説あり、はっきり解明されていない。

織部形といわれるものも古田織部が考え出したかどうかは定かではない。

隠れキリシタン信者がひそかに作った灯籠が、すぐ区別のできるものであるとも思われませんが、真実は謎につつまれている。

39 真好天神社 しんこうてんじんしゃ

瑞穂通4丁目

創建 明治2年（1869年） 祭神 しこうしによてんまんじざいてんじん 真好真如天満自在天神（菅原道真） 例祭 初天神祭など

[境内社] 熱田神宮 秋葉社 津島社

[由緒] 古老の伝えによると天保年間これより東、瑞穂区村上町二丁目一番地なる「おどり山」（塚）に鎮座ましましじに霊夢によりこの地に遷し祀るようお告げがあり 即ち氏子らは社殿を造営し、明治二年、ご遷座を奉仕し今日におよぶものである。（現在の神殿改築および拝殿の建設は、昭和37年（1962年）10月完工）



40 瑞穂古墳群

みずほこふんぐん

膳棚町3丁目、豊岡通3丁目

瑞穂総合運動場の改修、豊岡小学校の開設があり、小高い所に散在する古墳は、瑞穂古墳群としてまとまった。

- ・順位は、残ったものを優先して付けられた。

第1号古墳 豊岡小学校校 高さ4 m、径20 m ^{はじ}土師質の円筒埴輪が出土

第2号古墳 南児童遊園北 高さ5 m、径30 m

第3号古墳 野球場外野スタンドあたり 消滅

第4号古墳 第2号古墳の付近植林内 消滅

第2号古墳以下3つを指し三つ塚というが、一帯には他に塚が幾つもあったともいう。



瑞穂古墳（第1号）豊岡小学校



瑞穂古墳（第2号）瑞穂公園南児童園

41 下内田貝塚

しもうちだかいづか

萩山町4丁目

- ・昭和14年（1939年）、近くの大曲輪遺跡よりややおくれて発見され発掘調査された。
- ・貝塚、人骨、土器、石器、骨角器などが出土し、貝塚は、カキ、ハマグリ、ハイガイ、アサリなどからなる。主に縄文時代後期のものとされる。
- ・貝塚の名は、明治17年（1884年）作成「地籍付図地籍図」からの場所（瑞穂村字下内田）から字名にちなんで付けられた。
- ・場所は、毎年、瑞穂区民まつりが行われている瑞穂公園レクリエーション広場南口と瑞穂橋の周辺



42 大曲輪遺跡 おおぐるわいせき

山下通5丁目

- ・昭和14年（1939年）、名古屋市総合運動場の工事中に発見され。
- ・昭和16年（1941年）に国の史跡として指定された。
- ・縄文時代前期の貝塚を中心とする遺跡。
- ・貝塚の他には、土器、石器、動物の遺骸などが出土し採集された。

昭和55年競技場の改修工事の時、発掘調査が行われた。その結果、遺跡は、スタンドの西側の広い範囲で残存していることが判り、貝塚と竪穴式住居跡、さらに、保存状態の極めて良い、完全な状態の人骨1体と数体分の人骨が出土している。完全な状態の人骨1体は、名古屋市博物館で保管しているが、発見されたとき、その胸の上に犬の骨1頭分もあったことから注目された。その様子は市博物館でみることができる。その模型は、瑞穂陸上競技場西側大曲輪遺跡の囲いの近くに収められている。



43 あゆちの水（伝承地）

師長町

あゆちの水は、尾張の名水の一つといわれ、万葉集で詠まれている小治田の年魚道の水はここであるという説がある。

[万葉集卷十三]『小治田の^{おはりだ}年魚道^{あゆち}の水を^{ひま}間無くぞ 人は汲むとふ時じくぞ 人は飲むといふ
汲む人の^{ひま}間なきがごと 飲む人の 時じきがごと
吾妹子にわが恋ふらくは やむ時もなし』

～小治田の年魚道の水は、絶え間なく湧き出る。その水のおいしさにいつも人が来て、水を汲み、水を飲む。 水が絶え間なく湧き、水を汲む人や水を飲む人がいつもいるように 吾が恋人への恋心もやむこともなし～

※小治田＝尾張田 年魚道＝愛智＝あいち

直径1m、深さ3mほどの井戸で日照りが続いても水が枯れなかったといわれた。戦後荒れ果てていたが、昭和52年（1977年）地元の有志が記念碑と井戸などを復元し現在の形となった。

44 中根銅鐸発見地 なかねどうたくはっけんち 軍水町2丁目

- ・銅鐸の形 高さ83.2センチメートル、大型の耳が無いから三遠式（三河・遠江）、身に連続した渦巻き紋を飾っている、腐食が少なく他に無い特色をもつ。
- ・明治3年（1870年）道路工事中、丹羽利吉が、中根村字仁所旧番戸81戸の畑の中から銅鐸を他4点と共に発見した。看板の立っている公民館より西200mの地。
- ・総代小川幸七が村役場に届出、間もなく役場から地元^{さんえん}に払い下げられた、地元ではこれを宝鐸^{ほうたく}如来^{らい}として崇め郷蔵に収め秘宝として、毎年発見日の12月27日のみ御開帳^{ごかいちやう}した。
- ・明治7年（1874年）大谷派本願寺東別院で開かれた博覧会に出品、博覧会物品録第2号に宝鐸として図入りで展示された。博覧会後、京都東本願寺別院に寄進されたが、仏教に関わりの無いものとして、兵庫の辰馬悦蔵^{たつまえつぞう}に払い下げられ、現在、兵庫県西宮市にある辰馬考古資料館が所蔵している、銅鐸の収集では屈指の資料館。
- ・昭和59年（1984年）、国の重要文化財指定。
名称：突線袈裟襷文銅鐸／愛知県名古屋市瑞穂区軍水町出土 種別：考古資料 時代：弥生
解説文：鑄銅。身の両側が強く内反りとなり、裾にかけて広がる形態の大形銅鐸である。
- ・等身大の模造品が中根小学校の玄関にある。

※銅鐸

銅鐸は、謎の多いもの。

発見される場所：土器や石器などが発見される住居跡でもなく、銅製の用具が発見される墓などの跡でもない、集落から離れた丘や山のみもとなど。

わざわざ地中に埋めて保管していたという説もあるほどに埋まった状態で発見されている。

何に使ったか？：用途で考えられるのは、楽器で、初期に作られた小型のものは音を鳴らすことに使っていたこん跡があるらしい。しかし、中根の銅鐸の様な大型化したものについては、飾りか祭祀につかわれるようになったと創造されている。

メイド・イン・ジャパン？

：中国や朝鮮半島では似たものとして銅鈴というものがあるが、これだけ大型化しておらず、日本独自に発展していったものと考えられ、3世紀ごろ突然生産されなくなり、その銅鐸文化はなくなったようである。



45 西八幡社 にしはちまんしゃ

軍水町 3 丁目

創建 不詳 **祭神** 応神天皇 **摂社** 秋葉神社、西山神社、金刀比羅社、多賀社

- ・ 文政 5 年（ 1 8 2 2 年）に本殿を修復したという棟札あり。
その修復 2 0 0 周年の修復記念碑がある。
- ・ 中根の集落が発展し、東西に屋敷が分かれたので、西に氏神様八幡社を建立した。南から 4 3 段の石段を登る。
- ・ 敷地は広く、法蔵寺と敷地が続きで一緒になっており、地面に境を付けた。



46 宝蔵寺 ほうぞうじ

軍水町 3 丁目

創建 天文 1 2 年（ 1 5 4 3 年） **山号** 中根山 **宗派** 曹洞宗 **本尊** 薬師如来

本山 永平寺 **本寺** 熱田円通寺

開基 大安守公厘元 **開山** 逸山謙乗大和尚

- ・ 宝蔵寺入口は、北から西八幡社の参道を登り、石鳥居の手前で、左へ入る。
- ・ 弘法堂 弘法大師を祀り、左右の壁に南無大師遍照金剛なむだいしへんしょうこんごうの幕がかかる。
- ・ 地藏堂 六道の衆生を教化する地藏尊を祀る、歴代の法主の墓石も並べてある。
- ・ 宝篋印塔ほうきょういんとう 文政 1 2 年（ 1 8 2 9 年）奉納、宝篋印塔は名古屋で最大。
平成 2 3 年大改装を行った。



47 中根中ノ城跡 なかねなかのしろあと

中根に中根北城の中根中ノ城、中根南城の3つがあった、織田方に属し、黒末川の東側を守った。「尾張志」～

- | | | | | |
|-------|----|--------|-----------------|-----------------|
| 中根北城 | 城主 | 村上小膳 | 牛山とりで（弥富小学校日向町） | 東西 28 間、南北 29 間 |
| 中根中ノ城 | 城主 | 村上弥右衛門 | 菱池とりで（中根町） | 東西 26 間、南北 30 間 |
| 中根南城 | 城主 | 織田越中信照 | 丸根とりで（観音寺 丸根町） | 東西 51 間、南北 49 間 |
- ・織田越中信照 古渡城主織田信秀と熱田の商人の娘との間に生まれる、信長の弟を名乗る、信秀死後、母は小川の水野信に嫁ぐ。
 - ・中根は東西勢力の接点となっていたので、織田越中信照は、棒の手（見当流）武術を大いに奨励したという。→次項 48 東八幡社

48 東八幡社 ひがしはちまんしゃ 中根町 3 丁目

創建 不詳 祭神 応神天皇

〔境内社〕 金比羅社、秋葉社、東山神社、白山社、金峯神社

〔神馬像〕 生きた馬を献納するのだが神社では飼う事が出来ず、青銅製の馬を建てた。

八幡宮に中根北城にあった白山社を合祀している。

明治10年（1877年）、東山神社と白山権現社をここへ合祀したときに、名称を東八幡社とした。

中根村の新屋敷が分かれ、西に八幡社があったので、東八幡社とした。



※中根町「見当流棒の手」 名古屋市指定無形民俗文化財

- ・熱田神宮に馬が奉納されるとき、飾り馬の周りに武器を携えて警護役が付く、社寺境内に入ると武術を披露した。その武術の中に「棒の手」もあった。

熱田神宮には棒の手発祥之地碑があり、熱田祭りに碑の前で各流派の棒の手演技が披露される。

- ・毎年、東八幡社の祭礼に「棒の手」が、奉納演技される。
- ・中根の棒の手は、天文23年（1554年）加賀国本田遊無を始祖とする。

中根の城主であった織田信照は、この棒の手の妙技をみて、以後大いに奨励したのがはじまりといわれている。

- ・戦国時代の農民は戦があると狩り出されるので、常日頃護衛術を身に付ける必要があつた、二人一組で武器を使うのが基本、村一番が奥儀の口伝と免許皆伝の巻物を受け継ぐ、村の秘伝になっており公開しない、三河と尾張の勢力の堺に発達した。
- ・境内に保存会が建てた見当流の碑がある。



創建 慶長10年(1605年) 山号 北条山 宗派 浄土宗 本尊 阿弥陀如来

- ・阿弥陀如来像は、初代尾張藩主徳川義直から下賜されたもの。
- ・観音堂には、元和8年(1622年)井戸の中から発見されたという千手観音が納められている。寺宝として、円空作とされる善女竜王像があり、頭の上に龍が乗る、後背面に梵字^{ぼんじ}がうっすらと残っている。
- ・寺は、織田信長の弟信照が築城した中根城の北城、中ノ城、南城のうちの「南城」の一部であった。
- ・寺の西側の北条八幡社〔祭神〕誉田別命(応神天皇)は、中根南城の鎮護神ともいわれる。北条八幡社の脇に黒松の根があるが、樹齢400年といわれ、枯れる前は天然記念物として指定されていた。
- ・嘉永3年(1850年)十尋堂で寺子屋が開かれていた。明治の学制とともに廃止された。
- ・明治6年(1873年)愛知郡第17番小学正倫学校(弥富小学校の前身)が境内に生まれた。

50 馬頭観音 ばとうかのん

頭上に馬の頭を頂いている、観世音菩薩(観音)は慈悲のお顔をしているが、馬頭観音は唯一怒った顔をしているという特徴がある。

瑞穂区内にある石仏として路傍にあるものは、主に馬による交通と関係するものと考えられる。また、人々が困難に遭遇した時、駆けつけ救済する、という信仰もある。

[区内の馬頭観音]

- ・本願寺村の薬師寺境内(本願寺町2丁目)観音堂に祀ってある。山門の前には街道があつた。
- ・みやみち地藏堂 市大病院東北角堂前(元藩士川澄平左衛門屋敷)に誰かが持ってきた馬頭観音像と思われる、すり減った三面の石がある。
- ・川澄地藏堂 市大病院道路隔て東、堂内は向かって左端に馬頭観音が祀ってある。元市大病院の正門付近にあつたのを移転した。
- ・奥村家の観音堂 奥村家は村上新田の大殿山で馬車運送業を営んでいた、馬小屋を持ち、馬の安全を願って、下街道筋の龍泉寺から馬頭観音を勧請し、屋敷に祀った。大正時代に廃業し転居、残っていた馬頭観音像に分家の奥村家の者が伺った処、「お前が面倒を見て呉れるならお前の所へ行く」とお告げがあり、庭の道路に面した処へ移し祀った。
- ・浄土真宗東栄寺の門前(東栄町5丁目)、境外の敷地に、観音堂が二つ並んで建っている。馬頭観音像は藤成新田の方で、区画整理のとき幾度も移転、耕地整理組合が困り、一時観音堂北に安置、それが今も続いている。

参考文献・資料

- 『名古屋市史』 名古屋市
『なごやの町名』 名古屋市
『区政概要』 名古屋市
『名古屋の史跡と文化財』 名古屋市教育委員会
『名古屋市 史跡・名勝地図』 名古屋市教育委員会
『文化財叢書第八十一号 熱田・瑞穂区の考古遺跡』 三渡俊一郎
『瑞穂区ーその生い立ちからー』 瑞穂区役所
『瑞穂区誌』 瑞穂区役所
『瑞穂区の歴史』 山田寂雀
『美豆保』 瑞穂区郷土史跡研究会
『瑞穂区の地名・町名考』 木全秀視
『御劔だよりー御劔探訪シリーズ』 御劔コミュニティセンター広報部
『穂波 学区40年誌』 穂波学区連絡協議会
『豊岡』 豊岡学区設立三十周年記念事業実行委員会
『陽明』 陽明学区連絡協議会
『開校五十周年記念誌 御劔』 御劔小学校
『開校50周年 井戸田』 井戸田小学校
『わたしたちの弥富』 弥富小学校
『八劔社誌』 八劔社
『一之御前社誌』 山本徳二郎

みずほ検定「クイズDEみずほ」～歴史・史跡編～公式テキストは、瑞穂区郷土史跡研究会にご協力をいただき、瑞穂区史跡紹介の資料としてまとめることができました。

また、参考文献等にはあげられませんでした。地域の方や寺社の関係者のみなさまにいろいろとご教示いただいたことの多くは、テキスト作成を進めるについて、たいへん大きな力となりました。お世話になりましたみなさま、誠にありがとうございました。

平成 23 年 10 月発行

編 集 瑞穂区役所 瑞穂区郷土史跡研究会

発 行 瑞穂区役所

印刷部数 1,000 部

印 刷 株式会社コスモクリエイティブ

名古屋市熱田区新尾頭一丁目 8 番 8 号

地 図 株式会社ゼンリン

名古屋市熱田区沢上二丁目 1 番 32 号

このテキストは古紙パルプを含む再生紙を使用しています。